

○議長 宮城清政君 これから本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布したとおりでございます。

開議（午前10時00分）

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長 宮城清政君 日程第1．会議録署名議員の指名を行います。本日の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって11番 宮城寛諄議員、12番 上原喜代子議員を指名します。

日程第2．一般質問

○議長 宮城清政君 日程第2．一般質問を行います。それでは、通告書のとおり順次発言を許します。11番 宮城寛諄議員。

〔宮城寛諄議員 登壇〕

○11番 宮城寛諄君 通告書にしたがい、一般質問をいたします。まず、介護保険制度の改悪阻止をということで（1）介護保険制度の2015年実施の改定で、大きく3点が問われました。①要支援1・2の訪問介護、通所介護が自治体事業に移行。②年金収入280万円以上の者の2割負担。③特養ホーム入所を要介護3以上に限定というふうなことが行われました。本町でその影響はどれほどかお伺いしたいと思います。（2）厚生労働省の社会保障審議会介護保険部会で、現在、介護保険制度の改定が進められようとしています。多くの提案がされているようですけれども、主に次の4点が示されています。懸念がされています。1つ目に、要介護1・2の介護からの外し、訪問介護や通所介護、福祉用具の貸与を保険適用から外す。それから2つ目に、利用料の引き上げ。（3）負担上限の引き上げ。4つ目に介護保険料の納付年齢の引き下げ。今は40歳ですけれども、20歳からにしようという案も出ているようであります。このような改定案が審議されています。こういう改悪に対して早急に抗議をするということが必要ではないかと思っておりますけれども、町長はどうお思いでしょうか。それから、3項目目に、本町の介護保険認定者のうちでその改定がされると影響を受けるよう支援1・2、それから要介護1・2認定者はどれくらいか。全体の何割に当たるのかお伺いしたいと思います。

2点目に、山川体育センターの再整備をということで質問したいと思います。山川体育センターは、昭和62年に設置されスポーツの振興や体力増強の場として町内外の多くの皆さん方に利用されております。山川区民や少年野球チームなど大いに活用しているわけで

あります。しかし、近年、施設の傷みが激しくなっています。雨で表土が流されて、でこぼこの状態であります。山川区民、南山会（野球チーム）が中心ですけれども、毎年側溝をさらって整備しております。今年も今月6日に午後2時から側溝の整備、グラウンドの整備を行う計画であります。ぜひ、関係者はグラウンドを覗いてみてください。なるべくでしたらお手伝いしてもらったら大変助かります。こういう整備をしているのですけれども、一旦雨が降れば表土が流される状況であります。本格的な整備が必要ではないか。どう考えますか、その点をお伺いしたいと思います。特にここで詳しく書いていないのですが、本格的な整備ということで例えばネットが破れていたり、管理棟のレンガが割れて飛散していたり、そういうことがいろいろありますので本格的な整備が必要ではないかという質問であります。

それから（2）グラウンドの照明も取り替えたばかりでありますけれども、再整備の観点から、特にまた南風原町の外灯などLED化していますからそのグラウンドもLED化できないかどうかお伺いしたいと思います。以上、よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 それでは質問事項1点目介護保険制度の改悪阻止をについてお答えします。さらに質問用紙で3点に分かれていますので1つずつお答えします。まず①についてであります。法改正後も現行の訪問介護、通所介護が必要な方は利用できる仕組みとなっており、現状としては現行の訪問介護や通所介護を利用されている方が多いことと町の通所型サービスに移った方は、本人の意向を伺って希望するサービスを選択し利用しております。②については、2割負担になったためにサービスを利用しない等の苦情・相談はありません。③については、すでに入所している方については経過措置により、要介護1・2の場合でも継続入所が可能となっています。以上のことから、本町においては現在のところ大きな影響はないと考えております。（2）についてです。厚生労働省社会保障審議会介護保険部会において、軽度者への支援の在り方、福祉用具、住宅改修の在り方、利用者負担の在り方、被保険者の範囲の在り方等について現在審議中であることから、その経過を見守ってまいりたいと思います。（3）についてお答えします。平成28年8月末時点で要支援1・2認定者が259人、要介護1・2認定者が330人で、合計589人です。これは認定者全体の約5割となっています。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 宮城寛淳議員のご質問にお答えします。質問事項2. 山川体育センターの再整備に関するご質問でございますが、（1）、（2）は関連いたしますので一括してお答えいたします。現在、山川体育センターについては、土入れ替え等の改修工事や施

設の改築等の計画はございません。今後も引き続き修繕費や原材料費で対応していきたいと考えております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 LEDのことも答えてくれるかと思いましたが、それもまとめてということなのですね。分かりました。

昨年の要支援1・2が介護から外して地方自治体の事業へ移されたのですけれども、それについて特に苦情はないと、変わらぬサービスを受けてもらっているということですね。昨年の改定前にも私はそういうことがあるのでどうしますかと言ったら、変わらないサービスをしていきたいと答弁をもらったことがあります。そのとおりやっているとのことなのでも、問題は今後もそのように続けていけるかどうかでそれが懸念なのですね。介護保険40歳からずっと払って、一旦そういった認定を受けて利用するときにはそのサービスが受けられることが最大の保障だと思うのです。それが介護保険からの適用ではなくて各自治体の事業に移されていることが要支援1・2。今度行われようとしている介護1・2も含めてということなのですが、そのへんの懸念があるわけです。介護保険の適用、要するに給付ということで国がちゃんと手当てしていくとのことなのですが、各自治体の事業となれば予算がなくなればそれまで、ということもなくはない、あり得るわけです。ですから、現在のところ大きな影響はないと思いますとのお答えなのですが、今後もそのとおり続けていかれると、これまでどおり遜色（そんしょく）なくやっていくということなののでしょうか。その点をお伺いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えします。引き続きこの介護保険制度による町の介護予防事業をしっかりと対象者の方々、要するに介護にならないような予防事業の充実含めて市町村に移されました地域支援事業の充実に向け取り組んでまいりたいと思います。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 ぜひそのへんはやって欲しい。保険加入者が思うのは、保険があつて介護はなしになると懸念されること。例えば年金をどんどん払って行って、年齢が上がっていったりその給付が減らされたりということになると、年金は払わないでおうかという人が多くなるというように、この保険もそういうことがあつてはならないと思うのです。ですから、私はそういう自治体の事業ということではなく介護保険の中でやるべきだと考えています。そういう意味からそこを外すというのは改悪だと指摘をしてこれまでも

質問してきたわけですが、今の部長や町長が現職の間はやっていけるでしょうしそのあとは分かりませんが、引き続きやっていくということですのでがんばって欲しいと思います。

次に移ります。(2)は審議中でそれを見守りたいということのようですけれども、私は審議中だからこそ意見を申し上げるべきではないかと思うのです。決まってからだとなんだかんだと言ってもなかなか難しいと思うのです。今、いろんな意見が出されていて要支援1・2、それから介護も今度かということと福祉用具の貸与なども10割負担・自己負担にするというようなことになったり、先ほど言いましたように保険者を40歳から20歳に下げるとか、それからその給付の限度額を上げていくということがどんどん審議されているなかでぜひ声を上げて欲しい。見守るというのも行政側の立場として分かってはいるのですが、けれども今そういうことがあるからこそ問題と思われるところにはちゃんと手を挙げてやっていくことが必要だと思うのです。確か審議会のメンバーには市町村長会の方も入っているのです。社会保障審議会介護保険部会の委員名簿を見たのですが、全国町村会長なども入っていますし、そのなか同士でも意見を言えるわけです。それから介護保険の中身からしてもそういう団体からものが言える。自分たちの団体の代表がその審議会の中に入っているわけですから、悪いところは悪いとやるべきではないと思うのですがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。現在、この社会保障審議会介護保険部会で議論されているところです。議員おっしゃいますように、そこには自治体の代表の方も委員としておられますし、その他の委員の方からも慎重論が出ているようです。例えば委員の一人であります全国市長会の香川県高松市長の意見ということで資料にありますが、基礎自治体ではまだ新しい総合事業の立ち上げに苦労していると。そういう市町村もあると。そういうなかでまた新たに軽度者への給付を見直すのは市町村として対応は厳しい、慎重な対応を求めるという慎重論の意見を述べておられます。また他にも、軽度者でも認知症など生活援助が必要な方がいると、誰もができるものではなく見直しは時期尚早だとか、そういったかたちの意見が出ております。そして特に、被保険者の範囲の拡大、40歳以下への年齢拡大に関しては相当な慎重な意見が出ておまして、この部分に関しては将来的な見直しを行うとしても現時点での対象拡大には慎重な意見が相当出てきているということで、この部分の結論は先送りされるのではないかという見方も出ております。今は40歳以上ですが、それを拡大するという部分では相当な委員の方々からの慎重な意見が出ている状況ですので、われわれとしては審議会の審議を見守っていきたい、経過を見ていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 部長のおっしゃるように、今いろんな意見が出ていて時期尚早だとかいうものもあります。ですから、そういうところに皆さん方の意見はどのように集約されているのですか。皆さん方はずっと黙って見守るというようなことなののでしょうか。例えば先ほど町村会長と言いましたけれども、沖縄の町村長会から意見が上がって、その代表の委員のところに行っているのか。介護関係とか社会保障関係の委員の耳に皆さんの意見は入っているのですか。全く見守るというだけですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 それぞれの保険者の意見という部分に関しまして、われわれは沖縄県介護保険広域連合に加盟する一自治体ではあります。その広域連合と意見の取りまとめ等の機会がございましたらそういった場で意見が述べられるものだと思います。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 今審議されている内容、たぶんその審議会の内容はご存知だと思いますけれども、そういう内容について皆さん方はどのようにお思いですか。そのまま行ってもいいとお考えなのか、いやその件はおかしいというように思っているのか。私が言ったように例えば福祉用具貸与の個人負担になる可能性もあるし、同じように自治体の事業になって1割負担、2割負担になるのか分かりませんがその懸念があるわけです。それから負担上限の引き上げ、先ほど言った対象年齢の拡大については先送りになるのではないかとおっしゃっていましたがそういう諸々が出ているのですがそれについて皆さん方は南風原町の介護の皆さん方の福祉サービスを守る立場からしたらどういうふうにお考えなのか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えします。まず第6期の改正において、市町村に事業が移ってきて、地域でできるものは地域の資源を活用して介護予防に対する事業を充実させていく考えの基でわれわれも今取り組んでいるところでございます。しかしまだその取り組みを始めたばかりでありまして、要支援の方々を地域でボランティア等募って支援していく部分でもまだ始めたばかりでありますので、これからそういう体制を作り上げていく状況です。そういったなかでさらにまた軽度者の方々をそこへ移してくるという部分では先ほど委員で自治体代表の方の意見にありますようにわれわれも同じ考え方あります。福

祉用具の貸与等につきましても、これが全額自己負担となりますとやはり住民の方々の負担が大きくなるものと思いますので、そのへんに関しましてもわれわれとしても時期尚早と言いますか、福祉用具の貸与の部分に関しましてはやはり市場価格と言いますかベッドにせよ杖にせよ、いろいろな価格設定が議論されています。そういったことで保険者としても確認する努力があるかと思いますが、いずれにしましても利用者の方の負担が増えていくものだと思いますので、そのへんはこれ以上の負担はないほうがいいとわれわれも思うところであります。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 要するに自己負担になったり、その自己負担分が1割から2割になったり、限度が増えたりということになると確かに介護を受けている皆さん方の負担になるし、その介護を利用しないということも出てくるわけです。ですから、今特に介護の初期から中期と言われている要介護1・2ぐらいまでは在宅介護が主で、訪問介護・通所介護が主なのですよ。要介護3からしか特養（特別養護老人ホーム）に入れないのですから、ですからそれを考えると、政府が言っている例えば介護離職ゼロと打ち出して介護施設の増設とか介護職員の確保をして介護離職をなくそうということを言っているのだけれども、そのように考えると在宅介護が主な要介護1から要介護2までの皆さん方を介護給付から外すと、それからいろいろ保険料を上げたり自己負担分が上がってきたりするとそれから離れていく、余計に仕事を辞めて親の介護をしなきゃならないということが多くなるのではないかと、政府が今言っていることと違うのではないかと私は思うのです。そう思うのが普通ではないかと思っているのですがね。ですから、今の政府がやろうとしている改定に対しては改悪だと、止めるべきだと早急に声を上げるべきだと思っているのです。皆さん方も負担になるだろうとおっしゃっていますが、先ほど広域連合の話もありましたがそこを通じてでも声を上げていくべきだと私は思います。また町長は、市町村長会を通じてでも声を上げていく。こういう改悪は許さないという声を各自治体から全国で上がることによって改悪はストップすると思うのです。それからもちろん、国も財源で大変だということでその財源探しをいろいろやっているようですけれども、だから消費税を導入するのだとこれまでもありましたけれどもね。社会保障に全部使うのだとか。ところが、開けてみると全然違うということもあるわけですから、少なくとも介護保険でそういう改悪は許さないという声をぜひ上げるべきだと思いますけれども、最後に一言、町長、どうですか。どうお思いでしょうか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えいたします。介護保険に関しまして、医療もそうですが、

毎年右肩上がりでございます。介護給付費は、平成26年度ですが全国で8.9兆円と過去最高額になっています。やはり議員もおっしゃっていましたように、財源の確保も相当課題であります。そういった部分からいろいろな視点で国も改正をしていっているわけでありまして、われわれとしては財源確保も含めながらやはりこの審議会の検討内容を見ていきたいということです。さらにこれは1つの事例なのですが、昨年の改正で市町村に移った部分がございます。市町村は独自で事業をしていきます。そういったこの独自の事業で介護に行かないようにする。支援を充実させてできるだけ介護にいかないような事業に取り組んで、給付費の総額を少しでも下げていくというような目的もあって事業をやっていますが、そういったなかで新しく町がやったサービスに移った方々もいて、そのなかでは個人の負担が減った方もおられます。そういうこともございますので、市町村に移って市町村が独自でやる地域支援事業も充実させながら、今年度からは社協に委託して生活支援コーディネーターも2人配置し、地域に出向いて行って地域での支援活動に取り組んでいっていますので、そこを充実させていき、介護保険の総額を抑える取組もしながらこの制度安定化に市町村としても取り組んでいきたいということです。制度の改正等については、財源等も含めた改正でありますので、この審議会の内容を見ていきたいと思います。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 いろんな事業を行って、要支援から介護にならないようにやることで財源と言うかお金があまりかからないようにするというのは望む方向だと思いますが、政府の今やっていることは全然違いますでしょう。小泉内閣でしたか、これまでなかった要支援1・2を作って要介護の人は要支援に持って行って、要するにサービスを少なくすると。それから今度は要支援を外すと、それから今度の改悪では要介護まで外していくということであれば、各自治体の事業に全部持っていったら自治体にも財政が良い所と悪い所があるわけですからそういう意味ではサービスが実際に受けられるかどうかは疑問なのです。南風原町は今、それなりにがんばってやっていると、変わらぬ事業をやっているということですけれども、それがいつまで続くのか財政の問題もいろいろあるでしょう。それも懸念されるところです。先ほど言っていた本町の影響を受ける要支援、要介護では約50パーセントだとおっしゃっていました。全国的には60パーセントを超えるような所があるみたいですが、少なくとも介護認定を受けた半分の方が介護の適用を外されるわけですね。市町村の事業に移されるわけですね。介護保険をちゃんと払っていてそういうことになるのは、まさに国家的詐欺だということも国会では言われて、安倍総理はいやそうではないみたいなことを言っているみたいですが、それでも。部長がおっしゃっているように要介護にならないように事業を進めていくことはとても素晴らしいことであるのですけれども、国の狙いはそういう介護者を切り捨てるという改悪。ぜひそれは審議を見守りたい、自分たちの意見は言っているというようなことをおっしゃっていますので、ただ黙って見

ているということではなく、ぜひ意見を上げて、町民の皆さん方、私も1号保険になりましたけれども40歳以上の保険にかけている皆さん方が、本当に自分が介護を受ける状況になったときに受けられるのかと、認定は受けたけれども値段が高くてサービスが受けられないということにならないようにがんばって欲しいと思います。あとは次回に回して次に進みたいと思います。

山川体育センターですけれども、今のところないということです。単なる修繕だけでは難しいところもあるのです。例えば照明とかネットとか、そういうところは修繕費で直せると思います。しかし、路面の取り替えというのはきちんと年次的事業計画を立ててやって欲しい。はい、すぐ来年にやりますというのではなくて、計画的にぜひやってほしいと思います。まず、グラウンドはご覧になりましたか。それから質問したいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 山川体育センターについては、山川区民が広く使われて、特に南山会、少年野球には多く使われているということで理解しており、グラウンドも確認しております。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 グラウンドを確認したのであれば分かると思います。一塁側は雨が降ると溝が3本ほどできます。それをまた埋めてローラーを掛けるのですけれども、やはり本格的に改修しない限りどうしても駄目なのですね。それから芝生が生えている所とそうでない所との段差、でこぼこもあります。今年、芝生の中に生えているギンネムも皆で取ったりいろいろ皆で管理はしています。区長は、本当にたびたび芝刈りをしているのですが、雑草が生えてきたり、このグラウンドのでこぼこで子どもたちのイレギュラーボールが当たったり、隣の屋敷へ飛んで行った球をバケツいっぱい持ってくるとか、いろいろなことがあるのですね。そういう意味では年次的に計画してもいいからぜひそれをやって欲しいと思います。今度の山川行政懇談会ではこのことも取り上げるのではないかと思います。それまで時間がありますので、皆さん方にはぜひ検討してもらいたい。私はこれを2週間前にしか出していないので皆さん方は即答で答えたように「計画はありません」と、何かそっけない返事だと思ったのですが、少しは3年計画でも5年計画でも検討してみたいということが出てくるかと思ったのですが、あのグラウンドを見たら本当に何とかしないと思うのが普通ですよ。町長、近頃は山川の運動会に顔を見せず副町長が見えていますけれども、ぜひご覧になってください。向こうは水道管も中で破裂したのか水が通らなくて今は上から通している状態です。一時期断水もしたこともあるのですよね。それから水捌けも悪くなっています。これまでは雨が降っても1時間もたてばずっと水を吸い込ん

でいったのですよ。それがなかなかできない、水溜りができるという状況もあります。当初のあの状況、もちろん年数がたてばそれは悪くなるのも分かりますが、それにしてももう30年。だいぶ傷んでいます。そのへんはぜひ検討する余地があると思いますが、再度、教育長、部長ですか、お願いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 山川体育センターにつきましては、過去、平成19年度から平成27年度までの間にさまざまな改修工事を行っております。昨年度は夜間照明改修、その前は給水管等、その以前も防球ネット。それからまたグラウンドの改修工事も行っております。それで、平均すると過去9年間で毎年200万円程度の維持修繕費をかけて管理を努めてきていますので、今後もそのようなかたちで維持管理をしまいたいと考えております。

○議長 宮城清政君 11番 宮城寛諄議員。

○11番 宮城寛諄君 毎年200万円、安い金ではありません。これまで30年間かかっているわけですから、ここ10年間200万ずつで2,000万円ですか。それより一遍に改修してあと20年は大丈夫だというふうにしたほうが安上がりではないですか。町長、僕はそう思いますけれどもね。一遍に改修したほうがいいと思います。その改修はそれだけの金がかかりますからすぐにはできないにしても、防球ネットとか管理棟のレンガが飛ぶとかいうのは起こらないようすぐにでも対処して欲しいと思います。それから面整備は年次計画を立ててやって欲しいと思います。その点を要望して終わりますけれども、ぜひ検討なさってください。よろしくお願いします。以上で終わります。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前10時39分）

再開（午前10時51分）

○議長 宮城清政君 再開します。通告書のとおり順次発言を許します。5番 照屋仁士議員。

〔照屋仁士議員 登壇〕

○5番 照屋仁士君 それでは、2番目の質問に立ちたいと思います。よろしくお願いします。長い9月決算議会も今週いっぱいとなりました。議会中には連休、台風、委員会審議も非常に長引いていろいろありましたけれども、無事終われそうだと思っております。

また、今議会終了後には、11月5日、6日と開催予定の「ふるさと博覧会」で南風原町議会として5回目の議会報告会を予定しております。過去4回の実績を踏まえ、今回は新たな取組として町民を集めるのではなく、町民が集まる所へ自ら出向く視点で取組を議論しているところであります。より身近でさまざまな町民の声が本町議会へより多く反映されるような機会になればと思います。

さて、今回は決算議会ということもありますので、本町の財政についてまず質問をさせていただきます。通告書のとおり一問一答で質問に移ります。まず1点目であります。本町の借金比率は201パーセント（県内4位）をどう考える。平成28年度『ハイさいよ〜さん』によると、平成27年度末の町債残高は177億5,188万円となっております。また平成28年3月25日発行の『沖縄県町村議会議長会会報』によると、さまざまな財政数値で県内市町村財政を分析しておりますが、地方債プラス債務負担行為プラス積立金現在高の標準財政規模に占める割合で201パーセント、県内4位の数値に非常に驚きました。これは事前に、皆さんへ資料としてお配りしております。『はえばる議会だより』においても、平成27年度予算からは特別会計含め借金が分かるように改善し、引き続き基金残高や町民当たりなど工夫をして示しているところであります。町債や目的債でも交付税措置があるものをできるだけ活用するなどすべてが町民負担になるわけではないし、また投資が多い分、借金が多いことはもちろん理解しておりますが、町民の皆様に対して借金もすべてが財産ですと言えるものではないと考えております。私は平成26年6月定例会の一般質問において、町の借金について質問し行財政への努力も含め、町民の皆さんに正しく理解してもらえるよう借金時計など分かりやすく示していただくよう提言しましたが、その後の検討・計画含め、答弁のほどよろしく申し上げます。（1）『沖縄県町村議会議長会会報』第176号で、平成26年度県内市町村財政の分析が掲載された。「地方債現在高、債務負担行為及び積立金現在高の状況」において標準財政規模比がランキング方式で掲載されており、南風原町は県内4位の201パーセントとなっている。どう認識をしているかお答えください。（2）財政の仕組みは複雑で、さまざまな指標や指数もあるが、いかに町民に分かりやすく説明するかという視点が大事だと考えます。次のような表記は分かりやすい説明の一助になると思うが、改めて『ハイさいよ〜さん』で示すことができないかお答えください。表記については、資料としてお配りさせていただいております。（3）さまざまな財政健全化に取り組んでいると思うが、借金を含めその姿勢を町民に分かりやすく示す必要がある。「借金時計」をはじめ、どのような工夫と取組をされたかお答えください。（4）多くの行政需要やインフラ整備、一括交付金への対応等、町債の発行額が増えるのはやむを得ないとの回答も以前までありましたが、それでも実質の借金は減らしていかなければならないと考えます。どのように取り組んだかお答えください。以上、お願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の本町の借金比率は201パーセント（県内4位）をどう考えるか（1）についてお答えします。県内4位の201パーセントになった理由については、平成26年度より国民健康保険特別会計の収支赤字の影響による連結実質収支を赤字としない対策として、最終補正で財政調整基金を取り崩し一般会計へ繰り入れを行っていることによるものであります。その結果、平成26年度決算時の財政調整基金残高が減少したこと、また平成24年度以降の教育施設改修事業等による町債借入額の増が主な要因であると考えています。

（2）についてお答えします。財政に関する指標等についてより分かりやすく表現できるよう工夫をしております。

（3）についてです。町の財政状況等のお知らせについては、『ハイさい よ〜さん』と『主要施策の成果に関する報告書』での掲載。また、毎年、『広報はえばる』6月号に当該年度の予算、11月号に前年度の決算を公表しております。『ハイさい よ〜さん』の資料編で、起債や借金について表やグラフを用い分かりやすい説明にも心がけております。以前、ご提案のあった借金時計については、時間と連動して起債残額が変動する表示となっておりますが、交付税措置の部分をどのように表現するか、あるいは導入に際して経費面の課題等があります。ご提案のあります起債残高、普通交付税算入額、基金の残高を年次的に見やすい方法を検討し、次年度から対応してまいります。

（4）についてお答えします。予算編成においては、当該年度の起債借入額がその年度の公債費を上回らないよう心がけております。しかし、数年前より区画整理事業の進展に付随するインフラ整備や教育施設の老朽化に伴う増改築が重なり、起債償還額以上に借入を行っている状況であります。今後は、全事業について起債償還額と借入額の均衡を保つことを前提とした、これまで以上に厳格な事業計画と予算編成を行う必要があると考えています。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 それでは、1問目から再質問にしたいと思います。まず1点目ですけれども、この借金比率201パーセントということで、資料の表を見ると南風原町は下から4番目なのですよ。下から4番目とは言っても、私は別に下から4番目という表現もしていませんし、ワーストだという表現もしていません。つまり、投資が多ければ比率も上がる、それは当然ですので一概に悪いとは考えておりません。しかしながら、こうやっていろんな上位の市町村、これも上位と言っているのかはあるのですが、同規模の市町村を見ると非常に、例えば積立金の額だけを見ても隣の南城市が約107億円も積み上げているとか、でも一方では合併特例債などもあると思いますけれども地方債の残高もだいぶあるとか、市町村によつての情勢が分析できるわけです。今、連結実質収支赤字の部分で、国保の赤字を財調（財政調整基金）から埋めたと答弁がありましたけれども、

現実的な理由はそうだと思いますが根本的な理由はそれを埋めたことによって財調が減ると、要するに財調のもともとの残高が少ないというところにも他の市町村と違う考え方があるわけですね。ですから、一概に悪いとは言えませんが、やはり投資も必要ですが次の後年度にしっかりと積み上げていくことも大事だと考えておりますので、そのへんも踏まえて感想などご答弁いただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 議員からいただいた資料で、県の市町村課が発行している県内市町村の概要というのにも冊子にあります。それぞれの指標等々が載っているのですが、この3つの関係は将来の負担割合だと考えています。地方債、それから債務負担行為は将来へ係る負担ですね。それからいわゆる貯金高を除いた額。標準財政規模と言いますのはご承知かと思いますが、税金、普通交付税、それらに係る税関係の地方特例交付金等の交付金がございます。いわゆる一般財源となり得る収入とされておりますので、一般財源的な収入に対しての将来的な負担の割合ですね。ということで、非常に面白いランク付けだとあるのですが、一番の影響は地方債の残高も同規模の自治体と比べてやや多いかなという感じはしますが、積立金はすべての基金の合計でありまして、財調も先ほど副町長の答弁でありましたが一旦最終補正で予備費に積んでまた決算が終わったら繰り入れするわけです。トータルするとこれは20何億円かになると思います。それを加味したら、やや議員が配ったBの欄はたぶん減ることになりますね。CとDは将来に向けての負担で、CとDを足したもののからEは引くわけですので、そうすると少しはランクも違うのかなということを感じます。ランクがどうこうではないのですけれども、確かに国民健康保険の財政状況は先行き不透明で不安材料であるというのは事実です。こういった資料も真摯に受け止めて、やはり今後、あとのご質問でも出てくるのですが予算編成とか将来的な実施計画もかなり見据えた計画・編成が必要だと感じています。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。1点目では数字の差し引きのバランスは確かにおっしゃるとおりですけれども、まず1点目として私の指摘は、確かに国保の赤字もあるわけですが、飛び抜けて南風原町だけが国保の赤字を背負っているわけではないと思いますので、トータルで言うと積立金をもう少し積み上げる余地があるのではないかなという指摘でありました。その指摘を含めて次の2番に進みたいと思います。先ほど示した表は、この議長会の会報でも数ページにわたっていろんな指標で示されています。もちろん財政標準額、基準財政需要額の割合、いろんな指標がありいろんな分析の仕方がありますが、けれども、町民にとって分かりやすいかという視点では非常に分かり難い。僕でもこれは

どういう分析だったかなといちいち割り算の仕組みを2回も3回も確認して、それでも分かり難いというところで、資料にもお示しした次の表の提案になるわけです。これは以前、平成26年6月議会でも提案をしました。そこで提案されたグラフの形で表現していきたいと答弁されているわけですが、今回の答弁、次の3番目では同じような答弁がありますが、平成26年にも答弁されているわけですので表については一定の評価をしていただいたのかなと、分かりやすいと理解しているわけですが、その点の経過についてお答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 平成26年に、確かにこの表をお示しいただきました。『ハイさいよ〜さん』の平成28年版ですが、インタビュールームというところで、財政のさまざまな用語から説明はしております。そこらへんで反映できていないことを申し訳なく思うのですが、193ページでは円グラフを分解したような表し方になっています。これは議員がお示しになった町債残とか交付税に措置されるもの、これの差し引きで実質的な地方債の負担がこれぐらいですよというような見せ方がまだできておりません。この議員から表でお示しいただいた数字を折れ線グラフにするのか棒グラフにするのか、担当と協議して見せ方も工夫しながらグラフ化して、次年度は確実にお出ししたいと思っています。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 改めてこの資料の表をご説明しますと、まず1点目に各会計の合計ということで予算規模が示されているわけですが、平成23年から平成27年にかけて約50億円近く予算が増えている、これは非常に評価すべき努力の部分だと思うのです。これは『ハイさいよ〜さん』から全部拾っていますので、『ハイさいよ〜さん』にも書かれています。一方で、予算が50億円増えているのに町債の残高でいくと借金が増えているかと言うと、159億円に対して177億円ですから、5年間の推移としては16億円しか増えていない。50億円予算が増えても借金は16億円に留めている。当然、交付税措置に関しても177億円のうち92億円は後年度返ってくる交付税措置だよと。こういった要するに減ってはいないまでも予算を積み上げていく段階で借金をできるだけ増やさない努力をしているということをやはり町民に見せていきたいという趣旨で私も平成26年6月にこのような質問と表を提言したという流れです。部長から説明がありましたけれども、検討している段階だと思いますが、実際には変わっていないわけですね。今年度は踏み込んで、次年度から反映させていくとおっしゃっていただいていますので、そのへんはこの『ハイさいよ〜さん』を評価しているからこそもう一步踏み込んで町民に分かる形、見える形を示していただきたいと改めて思うわけであります。それを踏まえて3番に移りたいと思います。

今、半分ぐらい3番目の答弁もあったのかなとありますけれども、『ハイさい よ〜さん』の掲載、施策の成果による掲載、毎年の広報による掲載というような報告をいただいております。ただ、ご指摘申し上げたとおり、やはりさらにもう一步踏み込んだ検討をしてくださいというのを平成26年に行っていて、やりますというような答弁だったので、ぜひともその検討内容を示してくださいというような質問でした。実際にはまだ反映には至っていないということです、改めて。同じように、今度は平成29年度になりますか、これが冊子となって町民の皆さんが手に取れる一番詳しい資料だと評価していますので、その点も併せて繰り返しになりますがご答弁をお願いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 先ほども答弁いたしましたが、平成26年のご提案にまだ対応できていなくて申し訳ございません。まず見せ方ですね。どのような見せ方がいいのか研究させてください。今あったような『ハイさい よ〜さん』とかホームページでも色分けしつつどういったグラフが見やすいのか、より町債に対して普通交付税という言葉ではなくて、これは後で補てんされますよとかそういった文言等含めて、より分かりやすく掲載していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ご答弁いただいてありがたいと思ったわけですが、私もこれまで何度かこの問題を取り上げて、町民の皆さんとも日ごろから話し合いをしています。しかしながら、町民の皆さん、私の周りだけかも知れませんが、他市町村と比べていまだに南風原町の財政は豊かだとか税収も人口も増えているから大丈夫、もっとお金を使えるのではないかとそういった声も聞かれます。私もそういった声に対して、決して議会も行政も楽観視はしていないし努力しないといけないというようなことを説明しますが、なかなか響いていないのが現状です。不安を煽る意図はありませんけれども、やはり行政もさらなる財政健全化を目指す、そういった意思を示していく必要があると思います。これは資料で表記する云々ではありませんけれども、そのような視点で同様かどうかお答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 お答えいたします。確かに人口も税収も年々伸びて、これに対しては本当にありがたい自治体であると思っています。ただ、やはりそれは付随して行政需要が高くなるということも当然でございまして、あとはどれを重点的に、これはまた町長

の政策もございます。どのへんを重点的に投資するのか。それについては時機、今本当は必要なのだけれどもしばらく待っていただくとか、開始年度をずらしつつ行うとか、そういった工夫もしながら将来の基金の積み方も少し考えてみたいと感じています。財政調整基金には何パーセントという指標はございません。ただ、自治体によっては、われわれの市はこれぐらい、われわれの町は標準財政規模に対して何パーセントは常に目安として持って置くというのはございますので、それはそれで本町の実態に合わせた考え方で、財政調整基金の今後の在り方も方針を出しつつ、予算編成、実施計画についても先ほどから申し上げているようにより厳格な対応、予算配分の在り方というのも視野に入れて取り組んでいくということでございます。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。今のも踏まえて、ともに注視しながら、適正な財政運営については議会もチェックしていかなければいけないと思います。

4番に移りますが、実質の借金についてなかなか減っていないというところで、答弁では区画整理事業の進展に付随するインフラ整備、教育施設の老朽化など要するに借金を増やさないというか、返す額より借金をしないという基本原則を守りつつもちょっと増えている現状があるというようなことですけれども、ぜひ答えてほしいのはそういったやむを得ない状況はあるのですがなぜやむを得ないのかといったところをもう少し町民にも分かるかたちで示さなければいけないと思うのですね。例えば区画整理に付随するインフラ整備でも、今この時期に、区画整理特別会計に予算を注ぎ込んでいくことによって、そこで得られる税収をより早く確保してより町民が活用しやすくする。それによっていくらか税収を増やす見込みができるとか、教育施設についてもさらなる老朽化になる前に今やることによってこの人口増をさらに安心して子育てをする環境にすることで人口増の安定化ができるとか、そのように答えていかないと支出していくのは当然必要だから支出するわけです。そういったことがあると思うので、ぜひともそのように答えていただきたいと思いますが、つまりはこの税収を増やすことで逆にこれによって償還額を増やすことができるとか、新たな借金ではなくて今ある事業を早く終わらせるとか、投資的経費によっていろんなものが得られるのだと、また事業の再検討ですとか取り組んだ事業の内容とか姿勢を示していただきたいわけです。そのような視点でもう一度ご答弁いただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 今、議員がおっしゃっていたまさにそのとおりでございまして、区画整理とは事業の性質上、保留地等も処分してそれも整備費に充てていくということも

ございますので、タイミングを逸しないように早めに整理をしていって、適正な保留地処分を行ってこれも事業費として生み出していくとか、そういった投資に見返った収入に関しては必要なことでありますので、やはり集中的な投資も必要かと思います。先ほどの副町長の答弁でも教育施設等として触れたのですが、北丘小学校の大規模改修を2年ございました。平成27年には各幼稚園の4歳児の受け入れ、具体的にはその事業が起債額としては多くなっております。そういった諸々ございまして、今言った幼稚園というのが本町の非常に大きい課題である待機児童の解消に向けていて、医療費も中学生まで通院も無料化にしていますので他の市町村に比較したら子育てしやすい町だということで昨今の人口増につながっているということです。ご承知のとおり、若い人たちの転入、自然増も社会保障も多い自治体ですので、その人口増以上に個人住民税の納税義務者も増えているというように結果的には表れているのですがなかなかこれぐらい投資したからこれぐらい税が上がるだろうと具体的な数字は示せないのですが、そういった観点は当然取り入れながら、行政、本町全体の考え方の基に事業には取り組む必要があるとは考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 部長の答弁最後のほうにもありましたけれども、非常に投資額に対して回収できる見込みを示し難い事業もありますが、ただ、例えば最低限これぐらいの固定資産が見込まれるとか、待機児童が例えば今200人ぐらいなくなれば200人のお母さんが働けるようになるわけですね。そういうことによってだいたい平均年収でどれぐらいの税収が見込まれるとか、これは別に1人当たりのものを綿密に遡っていくとかではなくて、やはり投資に見合うそういった見返りはあるのだという視点は持っていただかないと、またお互いに持っていけないとやはり町民に対して、借金があるなかでどういう事業を打っていくかという説明の一助にはならないのではないかと思います。必要なことは当然分かっておりますがそういった視点も取り入れていただきたいと重ねてお願いしたいと思います。諸々積み上げた上で、非常に聞き難いところを聞きたいと思いますが、現状までは分かりました。改めて、この5年間、さらに前回示した表で言ってもですが、なかなか実質の借金を減らしていけていないところが現状としてあります。投資的経費があるというのは当然ですね。そういう中で改めて、いつごろから実質借金を減らしていくことが可能か。しばらくは停滞するのか、そのへんも見込みがあれば教えていただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 平成25年度から平成28年度までの各地方債の発行したものと償還、いわゆる公債費と比較しました。一般会計のベースで申し上げますが、平成25年度

から平成27年度までは借入額が償還元金よりも多いです。いわゆるプライマリーバランスと財政的には言うのですが、これが崩れています。それで先ほども触れましたが、平成27年度までに幼稚園の改修を終わりました、今回、プライマリーバランスが3年ぶりに借入額よりも元金を返す額が増えております。そのへん、ございます。ただ、やはり義務教育も当然必要なときに改修等入りますので、全体的な公共施設管理計画も立てております。そこを見込んで、事業の開始年度とか、同時に例えばいくつもの公園を一緒にやるとか、道路の改良関係もあるのですが開始年度をずらしつつとかそういった対応をすれば、プライマリーバランスを保つことによって、理屈としては、起債総額は増えませんが、そのへんはやはり厳密に、全庁的に取り組んでいくというように考えております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。非常に行政需要が多いなかで、そのようなプライマリーバランスも含めてやっていくことは非常に難しいなかで今年度回復しているということは大きいところだと思いますし、懸念しているのはこの数年で相当財政規模が増えているわけです。そういうなかで職員は増えていない。一方で臨時職員はものすごく増えている。そういう行政のアンバランスにも懸念が残るわけです。そういったところでは引き続き、財政の観点から言っても、私は収入を増やす、そこをやはり基準に考えてやっていただきたいとお願いして1番目は終わりたいと思います。

次に2番目です。国際交流から国際貢献へということであります。この議会の開会前に町長、議長におかれましては長期の南米訪問、大変お疲れ様でございました。さまざまな公務とともに、多くの県系人や町民子息との交流は、今後ますます有意義なものになると考えております。また、併せて今月執り行われる世界のウチナーンチュ大会にも期待したいと思います。さて、私も去る8月26日から31日にかけて、日青協第25次植林訪中団へ参加してまいりました。中国内モンゴル自治区ラト旗（ダラト旗）、河北省豊寧満族自治県を訪れ、実際に植林作業を行うとともに、過去25年間の植林の歴史と成果をこの目で見て体感をしてまいりました。この事業は、互いの友情はもちろん、単に砂漠化を防止するだけではなく、実際に現地の意識を大きく変えて、さらなる緑化と農地の拡大、住民の定住化など経済的発展にまで貢献をしている事業であります。現在、本町においては、子どもたちを主にカナダ、ハワイ、南米と国際交流を行っており、貴重な機会と経験になっていると思いますが、国際貢献についてはどうなっているのでしょうか。以前には、環境行政を絡めたカンボジアやモンゴルといった活動が記憶にあります。このような国際貢献は、先に述べたような現地での貢献だけではなく、将来に向けた人材育成、また本町の観光、産品、産業の発信に大きく貢献するものだと思いますので次のとおり質問します。（1）現在の国際交流と国際貢献の現状はいかがでしょうか。（2）今後、国際貢献も研究したり、まずは参加をしてはどうかと思いますがどうお考えでしょうかお答えください。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 照屋仁士議員の質問事項2. 国際交流から国際貢献へのご質問にお答えいたします。(1)でございますけれども、国際貢献とは現地での貢献だけでなく将来へ向けての人材育成も該当すると認識いたしております。そのため、本町における国際交流、国際貢献事業は、中学生10人を隔年でカナダ国レスブリッジ市、アメリカ合衆国ハワイ州へ派遣する青少年国際交流事業、青年2人を隔年で南米、アメリカ合衆国ハワイ州へ派遣する青年海外派遣事業、外国在住の南風原町出身者の子弟を研修生として受け入れる海外移住者子弟研修生受入事業となっております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 それでは、質問事項2点目(2)についてお答えします。さまざまな分野でグローバル化が進展するなか、本町においてもその流れに対応できる人材の育成が求められると理解しております。国際貢献は、相手国への貢献と同時に、本町にとっても有効な人材育成につながると考えております。他の自治体や近隣市町村及び民間等においての実施事例や連携等も調査・研究してまいりたいと思います。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 それでは、再質問にしたいと思います。教育長からは、国際交流をとおしお互いの人材育成が行われていて、それが国際貢献に当たるというようなご答弁だったと理解しています。具体的に、昨日の上原喜代子議員の質問にもありましたけれども、実際に参加した方ですとかもしくは南風原町に来られた研修生の実績とかそういった方々がその後どのような活動をされているかがあればお答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 これまで多くの方が国際交流として本町と相手国との間で交流を行っておりますが、OBとして南風原から町民が行った場合に迎え入れに協力してくれていると、またこちらのOBは相手国から来たときにOB会などをとおしての受入態勢で協力しているということで、参加した両皆さん方は今でも連携して事業の推進につながっているということでもあります。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 参加された方が継続してその事業にかかわっておられるというような趣旨だと思います。非常に良いことだと思いますので、報告書があればあとでお願いをしたいと思います。そういった本町は若年層の学生をはじめとしたところで、さらに近年では一括交付金も含めて青年海外派遣事業というものを作っていただいたとあるわけですが、今後たくさん増やしてくれという趣旨ではありませんがさまざまなパターンで国際交流、人材育成を行っていただきたいと思うわけであります。具体的なものは今ありませんが、そういったことに関して情報提供なりを今後もしていきたいと思うわけです。先ほど申し上げた、私が参加した事業も青年団体ですので、町の青年会あたりにも案内していきたいと思うわけですが、そういったときにもやはり海外となると予算が大きくなります。そういった部分ではぜひとも参加させたいと思っても事業化の話も1年、2年前に分かればいいのですがそれは年度内に来る場合もあるわけですから、そういった場合は広く相談に乗っていただきたいと思うのですが、その点いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 議員提案の件については、前向きに対応してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。引き続き、国際交流、また人材育成に取り組んでいただきたいと思います。

次に2番目で私としてはまず参加してはどうかと質問しておりますが、調査・研究をしていきたいと答弁をいただいています。具体的には私としても行政でこの分野ですとかそういった企画立案をするというのは難しいのではないかと思います。先にも述べましたが、私もカンボジア、モンゴルといった活動にも携わった覚えがありますけれども、核になる人ですとかその団体などが必要ではないかと感じています。先ほど教育委員会にもありましたけれども、まずは民間や企業の行う調査、特に県あたりでは企業の海外へのマーケティングだとか海外構想戦略だとかそういった事業が増えている印象がありますし、先日参加した別の研修会でもアジアゲートウェイ構想ですとかアジア圏をどうやって沖縄が取り入れていくかというようなことも盛んに県の職員が企画をされているというようなことを実際、県の政策監から伺いました。そのような調査・活動に職員又は町民が直接参加していったらどうかと思うわけですが、ここでも費用の問題が出てくるわけです。柔軟に費用を補助したり、そういった部分を受け入れて欲しいと思うわけですが、いかがお考えでしょうか。お答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 国際貢献ですね。趣旨としては非常に共感できます。仮に、これは一つの考え方なのですけれども、南風原町の行政の業務として国際貢献をしようということになると、今の人員とか事務の量とかそういったことで行政の業務としてやるのは困難かと正直なところそのように考えています。副町長からあったように、国際貢献ができるような人材を育成するということで、また本町の業務に非常にレベルが高い対応ができる人間ということでこれはまた町民の福祉向上に役立つということがありますので、例えば本町にも毎年になりますか、JICA（国際協力機構）をとおして社会貢献・国際貢献をなさっている若い人も結構います。毎年1人、2人、3人とか、これから何年間か行きますということで、今年も女性2人が参加しています。本町職員が仮にこういったことで世界のどこかに貢献してくるということであれば、やはり職場の環境の整備とかボランティア休暇も条例化されております。そのへんもありますので、世界に貢献できる人間がいることも非常に大事なことでありますので、大きい枠組みで捉えて考えて、行政ができるものはどんどん協力していくということになると思います。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 全部が全部というのはなかなか難しいと思いますし、私もそのように思っていますが、今お答えいただいたようにいろんな分野で協力できるケースもあると思います。特に、先に言った中国ではまだ非常に人脈社会なのですよ。そういった所で民間、そして行政というようなつながりのあるなかで行くと広がりやすいと言いますか、今一緒につながっていることが将来の発展につながるとか、具体的にはいろいろあると思いますがそういったことが考えられます。ケースバイケースだと思いますが、そういった視点も持っていただけたらと思いますがいかがお考えでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 特にアジア、中華圏といったインバウンド観光客が、実際本町にも大型スーパー、飲食店に訪れているようであります。そういったこともありますので、近い将来、こういった業務も出てくる可能性はないとは言えませんので、広い視野でアンテナを磨いておいていつでも対応できるよう研究はしていく必要があると思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。その答弁を受けて、具体的な話があればまたご相談に伺いたいと思いますので、そのような視点での取り扱いをお願いして私の質問を終わります。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時40分）

再開（午後0時59分）

○議長 宮城清政君 再開します。通告書のとおり順次発言を許します。14番 金城好春議員。

〔金城好春議員 登壇〕

○14番 金城好春君 通告書にしたがい、一般質問を行います。よろしくお願いします。まず、宇平橋周辺の環境美化と文化財の周知について伺います。（1）宇平橋の近くに公園があるが、南風原町が管理しているのですか。（2）公園内に宇平橋の石碑のレプリカと説明板が設置されている。説明板の文字が色あせて読みづらくなっている。改善できないか。（3）公園に「宇平橋公園」と名前を付けて看板を設置できないか。（4）公園内に放置車両とごみが捨てられている。撤去できないか。（5）公園近くのバス停にはソファが2つ捨てられている。中央分離帯や反対側にも不法投棄が目立ちます。改善できないか。（6）国道507号と那覇空港自動車道の交差している高架橋の下には津嘉山の御願所「竜宮井」がある。その付近もごみ捨て場のようにになっている。改善できないか。

2. 津嘉山北土地地区画整理事業の進捗を問う。（1）国道507号（仲井真津嘉山線）は、道路の拡幅工事も終了し、中央に白線を引こうとしている。仲井真・津嘉山線は、当初の計画どおり駐車帯を設置するとの説明があったが変更はないか。

3. 見通しの悪い交差点の改善をということで質問します。（1）町道83号線と町道16号線の交差点において、南風原高校側から車で来て十字路で一時停止すると、国道507号バイパス方面から来る車が街路樹に遮られて何も見えない。前に進み難いとの声がある。改善できないか。（2）町内に見通しの悪い交差点がないか調査し改善できないか。以上、3・質問いたします。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 では、質問事項1点目の宇平橋周辺の環境美化と文化財の周知について（1）にお答えします。ご指摘の箇所については、町の管理地ではないことから、沖縄県南部土木事務所に確認したところ県が管理をしているとのことであります。（3）についてお答えします。ご指摘の箇所が町の公園施設として整備されていないことや県が道

路残置部分を整備し管理していることから、立て看板の設置ができないか確認したところ、公園としての位置付けではないので公園看板の設置については予定がないということでした。(4)についてお答えします。ご指摘の箇所を管理者に確認したところ、放置車両については撤去手続き中であり、ごみについては撤去が済んでおります。(5)についてお答えします。ソファについては撤去済です。道路反対側の不法投棄については、随時指導を行い改善に努めてまいります。(6)についてお答えします。ご指摘の箇所については、南部国道事務所の管理地となっておりますので、対応するよう申し入れをしてあります。

質問事項2点目の津嘉山北土地地区画整理事業の進捗を問う(1)についてお答えします。道路の幅員構成として車道の左寄りに幅2.25メートルの停車帯を設置し、計画と変更はありません。

質問事項3点目、見通しの悪い交差点の改善を(1)についてお答えします。低木を剪定し、車両が確認できるよう改善しました。(2)についてお答えします。道路パトロール時に危険箇所を把握して改善に努めております。以上です。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 質問事項1番(2)についてお答えいたします。議員ご指摘のとおり、説明板が読みづらくなっておりますので、他の文化財の案内板や標柱等も調査して対応してまいりたいと考えております。以上です。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 今日の私の質問は、気が付いた所の整備のお願いと、それから区画整理事業の質問は確認の意味で質問でございましたけれども、宇平橋の環境美化と文化財の周知については教育長が答弁されました(2)について敷地は南部土木事務所の管理であると副町長からなされました。この石碑のレプリカと説明板は、どこが設置したのかお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 同レプリカと説明板については、看板にも書いていますが設置者及び管理者は南風原町教育委員会となっております。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 ありがとうございます。ではこの説明板が色あせているので改善を

申入れしていますので、早めに改善していただくということで理解してよろしいのかどうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 教育長から答弁もあったように、他の文化財の看板等も含めて早めに対応してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 この場所は、敷地が100坪あるかないかで小さいのですが、私は最初ここを公園にできないかと申しましたが、大変重要な宇平橋の説明板ともう1つありますね。宇平橋から近い所に、戦前の話ですが山川駅があったという説明板も設置されておりまして、文化財と歴史の周知について大変有効な看板とレプリカだと大変感心しているところでございます。ここに車を停めて、このレプリカと説明板を町民あるいは県民、観光客に読んでいただかないことには非常にもったいない気がしまして、ここに石碑と説明板があるよと知らせる何か手段がないかということで質問いたしました。昨日の大城勝議員も文化財についていろいろ質問されていましたが、文化財保護と周知は大事ではないかということで、教育委員会から県の教育委員会にこの宇平橋と宇平橋の碑文についてここにこういうものがありますよという看板みたいなものを道路上に設置できないものかどうか要請できませんでしょうか。ご検討をお願いしたいのですが、どうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほども答弁したとおり、軽便鉄道山川駅の説明の看板については町の教育委員会が設置しておりますので、それについてはわれわれの主観であります。こちらの場所については先ほど副町長からもあったように県の教育委員会が主管なのかどうかまだ確認が取れていませんので厳しいかと考えています。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 分かりました。また何か良い案があったらぜひ周知用の看板を立てていただきたいと要望して終わりたいと思います。

もう1つ、お聞かせください。文化センターへ行きますと玄関を開けてすぐ正面奥のほうに宇平橋の碑が立っています。説明板も設置されていると思いますが、その宇平橋の場

所はどこにあると説明されているのかお伺いしたいと思います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 この宇平橋の説明板はありますが、場所の説明は設置していません。

○議長 宮城清政君 14 番 金城好春議員。

○14 番 金城好春君 今からでも設置するお考えがないかどうか。番地と小さな図面でもいいですので設置してもらえたら大変良いのですがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 文化センター内にある碑ですね。そこについては、分かりやすい展示物の観点から必要であれば設置していきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 14 番 金城好春議員。

○14 番 金城好春君 ぜひ、お考えのほどよろしく申し上げます。それから、環境美化のことなのですが、この界限はなぜかごみの捨て所になりやすいのですね。もう10年、20年前から住民環境課のほうがずっとご承知かと思いますけれども、目を離すとすぐ不法投ができる、悪い言葉で言えば無法地帯と言いますかマナーを守らないということもありまして、立て看板を2つ、3つぐらい立ててもらえないかどうか、住民環境課によろしく申し上げます。

○議長 宮城清政君 暫時休憩します。

休憩（午後1時15分）

再開（午後1時15分）

○議長 宮城清政君 再開します。総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 設置するのであればやはり管理者、所有者との調整が必要ですのでそのへんはまた検討してまいりたいと思います。議員がおっしゃった場所は、特定というわけではないのですが、以前はそこから出されたケースもありましたので、先ほども答弁しておりますが、近くの人がやったであろうとは限らないわけですのでそれも含めて注意喚起、またそれが特定されたら当然この不法投棄をした者に対して厳重に注意してい

くことになると思います。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 どうかお願いします。この1番については、あとは撤去済とか要請中とかありましたのでこれで終わりたいと思います。

次に、区画整理事業の駐車帯なのですが、計画に変更はないというご答弁がございましたけれども、駐車する車の台数なども決まっているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 お答えいたします。駐車帯と言うよりは停車帯ということで、駐車場というわけではないですので誤解がないようにということですが、車道が3.25メートルあって、その車道と歩道との間に一時停止とか、何か品物を下すための一時停止するためのスペースが2.2メートル幅員確保されているということでございます。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 では、特に台数は決められていないということでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 特に台数というのではなくて、あくまでも沿道に接しているお店に品物を下すとか、何かあった場合の一時停止するための施設ということで、車道部にはみ出ないようにするための施設でございます。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 では、那覇にある正式に囲みを入れて料金メーターが設置されている駐車帯とは違って、縦の白線もないということでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 そうということでございます。

○議長 宮城清政君 14番 金城好春議員。

○14番 金城好春君 分かりました。地域の皆さんも完成を待ち望んでおられると思いますので、ぜひ立派な仲井真・津嘉山線を完成していただきますよう要望して、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 宮城清政君 暫時休憩します。

休憩（午後1時18分）

再開（午後1時20分）

○議長 宮城清政君 再開します。通告書のとおり順次発言を許します。4番 大宜見洋文議員。

〔大宜見洋文議員 登壇〕

○4番 大宜見洋文君 平成28年9月議会一般質問2日目、4番手、大宜見洋文です。今回も8つの質問をよろしくお願いします。では、通告書にしたがい、8問すべて読み上げて答弁をいただいてから一問一答で進めさせていただきます。

質問1. 国道329号で分断されている自治会の課題について（1）小学校区が複数に分かれる自治会はどこがあるか。（2）、質問（1）が原因で、他の自治会と異なる課題はあるか。（3）町として課題解決への具体策を示してほしい。

質問2. 教職員の職場環境の改善について（1）本町の教職員に対する労働安全衛生委員会の設置はどうなっているか。①学校教職員衛生管理規程は策定済みと聞いている。策定したのはいつか。②学校教職員安全衛生委員会の開催状況はどうなっているか。③安全衛生委員会での課題は何か。（2）町内6校で教職員のタイムカードはしっかり管理されているか。（3）校内に印刷機が1台しかなくて空き時間で印刷ができず、残業の一因になるとの悩みを聞いた。複数台導入は難しいのか。

質問3. 学童クラブにおける子育て支援について（1）県子どもの貧困対策推進基金を使った学童利用料軽減の施策は行われているか。（2）今後、利用者の増加も推測されるのか。そうならば、新たな学童クラブ開設も今後計画があるか。

質問4. 2つの県営団地建て替えについて（1）2つの県営団地（第一団地・第二団地）へ新しく転入する世帯数はどれぐらいになると予想されているか。（2）その場合、小学校の校区再編もあり得るか。

質問5. 路上違反簡易広告物除却活動員の設置は南風原町でも可能か。（1）『はえばる議会だより』裏面に、町民の声を掲載している。以前、南風原町議会広報誌191号でしたが、違反ポスター等の除去について町民より意見があった。町として具体策はあるか。（2）路上違反簡易広告物除却活動員の設置も有効と考える。南風原町でも設置可能か。

質問6. 公共交通の課題について（1）改正地域公共交通活性化・再生法とは何か。（2）

町内に公共交通空白地域はあるか。(3) 南風原町内の公共交通のカバー率はいくらか。

質問7. 本土で広がり始めている農福連携について問う(1) 農福連携について把握しているか。(2) 国はお互いの弱点を補い合おうと農福連携を掲げ、福祉事務所への農業技術者の派遣などに補助金を出す事業を開始しているとのことだが、町内で取り組む考えはあるか。

質問8. 平成27年度に実施したプレミアム商品券について(1) 経済効果はどれぐらいあったか。(2) 今後、再実施する可能性はあるか。以上、よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 教育長。

○教育長 赤嶺正之君 大宜見洋文議員のご質問にお答えします。質問事項1(1)でございますけれども、国道329号で小学校区が複数に分かれる自治会は、字宮平となります。

質問事項2(1)①でございます。学校教職員衛生管理規程は、平成21年4月1日から施行しています。②平成21年度に同委員会を開催しましたが、その後は開催しておりません。③まだ開催に至っていないため、同委員会での課題はありません。と申しますのは、委員会がこれまで開催できていないですから、課題がないというよりは確認ができなかったとご理解をお願いしたいと思います。(2)でございますが、職員の出勤簿について教育委員会では各学校長へ勤務実態の適切な把握・管理について指導をしております。(3)印刷機に関するご質問でございますけれども、学校より残業の一因となるとの課題が上がっておりますが、複数台の導入については、設置や保守費用、設置スペースの確保などの課題もありますので、まずは学校事務員などに印刷を依頼するなど、効率的な活用方法も含めて検討してまいりたいと考えております。

質問事項4. 小学校区の校区再編もあり得るかというご質問でございますけれども、校区再編につきましては、就学児童数の推移を調査・検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 では、引き続き質問事項1点目(2)についてお答えします。自治会内で校区が分かれていると自治会内に複数のPTA活動が生じるということが課題であります。(3)についてお答えします。町内で課題が内在しているのは、字宮平区であり、南風原小学校宮平PTAと北丘小宮平PTAが存在しています。同区に確認すると、PTA以外に老人会、女性会等は一つにまとまっています。同区運営の意思決定機関である評議員会では、両方のPTA会長が参加するなど情報交換を図っているということでもあります。町においては、以上のような取組の継続から、自治会の課題が議論され解決に向かうものだと考えております。

質問事項3点目の学童クラブにおける子育て支援について（1）にお答えします。学童利用料の軽減については、平成27年度から一括交付金を活用し、ひとり親家庭への利用料を減額している学童クラブに対して月額5,000円を上限に補助を行っています。（2）についてお答えします。学童クラブの新設に関しては、南風原町子ども・子育て支援事業計画に沿って平成31年度までに利用見込み数に応じた設置に向けて取り組んでおります。

質問事項4点目の2つの県営団地建て替えについて（1）にお答えします。建替え中の県営団地（第一団地・第二団地）の世帯数については、第一団地が建て替え前と同数の230戸、第二団地は36戸増の356戸の建設が計画されています。県によりますと、建て替え前の居住者は、本人が希望しない者以外はすべて再入居可能ということであり、新しく転入する世帯は第二団地の増分36戸と空き部屋数46戸と考えております。

質問事項5点目の路上違反簡易広告物除却活動員の設置は町でも可能か（1）についてお答えします。町選挙管理委員会では、町民から選挙違反と思われる掲示物の通報等がある場合に、警察へ通報するとともに当該候補者もしくは政党へ撤去を支持しております。

（2）についてお答えします。路上違反簡易広告物除却活動員は、屋外広告物法に基づき、都道府県もしくは条例を制定している市町村の条例に違反する広告物の除去を活動員に委任するものです。選挙の違反ポスター等については、公職選挙法に基づく対応となるため、路上違反簡易広告物除却活動員の活動外になると考えます。

質問事項6点目、公共交通の課題について（1）にお答えします。この法律は、少子高齢化の進展、マイカーの普及等により地域公共交通の維持に困難を生じていること等、社会経済情勢の変化に対し持続可能な地域公共交通網の形成に資するよう地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取組及び創意工夫を推進し、もって個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的とした法律となっています。（2）についてお答えします。交通空白地域については、明確な定義を定めていないため調査をしたことがありません。公共交通空白地域は、バス停からの距離、道幅や坂道の勾配など、交通機関の使いやすさを決める要因は多々あり、年齢や障がいの有無にも左右されるものだと考えます。（3）についてお答えします。公共交通のカバー率を算定したことはありません。

質問事項7点目の本土で広がり始めている農福連携についてお答えします。農福連携とは、耕作放棄地の増加、人手が足りない農業と働く場の確保と賃金の向上を求める福祉、双方の課題解決の糸口となることから、農林水産省、厚生労働省が推進している取組で、双方の課題を解決しながら双方に利益のある農と福祉の連携であると理解しております。

（2）についてお答えします。農福連携については、事業実施主体が民間事業所等となっておりますので、町内事業所等から相談がありましたら支援をしてまいりたいと思います。

質問事項8点目、平成27年度に実施したプレミアム商品券について（1）にお答えします。予算執行額6,327万円に対し事業規模として2億9,579万7,000円、消費額としてプレミアム商品券の発行が4万6,700冊で、総額2億8,020万円、換金率99.6パーセント、

最終消費額は3億551万5,000円と推計しております。商品券取扱加盟店舗数152事業所は、同商品券をきっかけに新たに生み出された直接的な消費喚起試算額が6,608万9,000円で、割増し分の142パーセントの結果となっております。(2)についてお答えします。商品券購入者、事業者に対するアンケート調査をした結果によれば、町民の同商品券に対する期待感が大きく、取扱店舗から参加して良かった77.2パーセントで好評だったことから、今後、同様の補助事業があれば再実施に向けて検討したいと考えております。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩(午後1時35分)

再開(午後1時35分)

○議長 宮城清政君 再開します。4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 答弁、どうもありがとうございました。それでは、再質問を一問一答でよろしくをお願いします。まず質問1の国道329号で分断されている自治会の課題についてですが、私は結婚して南風原第一団地に越してきて20年住まわせてもらいました。県営団地はいろんな地域から移り住んできた集合住宅ではあるものの、住んでいる団地に愛着と誇りなど帰属意識の高い皆さんに育てられてなんとか3人の息子もしっかり育ち感謝の気持ちでいっぱいです。高齢の両親が南風原町を気に入って宮平のマンションに転居し、その介護もあり現在住んでいる宮平自治会に加入して議員の充て職として自治会の審議委員にも関わらせていただいています。第一団地に住んでいたころは、宮平などの古くからある旧部落は、アパートなど集合住宅は増えているものの地域住民のつながりは強く、活動も活発でしっかりとまとまっているとの印象でしたが、審議委員として宮平自治会の行事に参加して感じるのは、国道329号の北側、北宮地域での住民の連携が支部PTAの総会や懇談会、PTA活動を見てもなかなか厳しい状況だということです。宮平自治会では高齢者世帯のみの会員が増える一方、若い世代の新規加入がなかなか増えず会員加入率が改善しない。これは宮平自治会に限ったことではないと思いますけれども、地域連携が弱くなってきていることは第四次南風原町総合計画策定のころから防災・防犯の面でも重要な地域の安心・安全の整備に向けて南風原町としての認識と課題解決策をお聞きしたいというのがこの質問の趣旨です。まず(1)の小学校区が複数に分かれる自治会は宮平だけとのことですけれども、新川に近い兼城にも北丘小学校区のエリアがあると聞きましたがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 北丘校区の地番にも兼城の住所が含まれますが、自治会は分断されないという認識を持っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。ということは宮平だけということが確認できたと思います。では、(1)他の自治会と異なる課題、校区が分かれているということで行政側も認識していることがわかりました。ですが現状の取組を継続するなかから、自治会で会員同士の議論による解決策をお願いしますということで受け取ってよろしいでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 自治会活動を広く捉えてお答えしますと、自治会はやはり自治会の自主性・主体性が当然ありますので、われわれはお手伝いをするということになります。これはまちづくり条例にも第26条で地域コミュニティ活動の推進というのがあります。町は、地域の自主性を尊重してその支援に努めるとありますので、当然、自治会は自主的に主体的に取り組まれるということになると思います。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。やはり既存の皆さんがアイデアを出し合う機会がないこともありますけれども、これからはやはり機会を増やしていったって、例えばPTA支部懇談会をまず宮平支部と北宮支部の開催日を分けることはできますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 今現在実施していますPTA支部懇談会は、本来なら地域独自の実態を踏まえた目標を設定し支部の問題を支部が考え解決し、地域の子どもたちを育むために話し合いをする懇談会であり、地域主体で開催することが本来の目的となっておりますが、現在は支部の役員が1年ごとに替わることから、町の教育委員会と学校が協力して同日開催をしておりますが、今後は支部において懇談会開催や進行を行うことができるようになればそれぞれの支部が独自で開催日を設定し開催することもできるかと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 独自でできるなら可能だということで分かりました。ありがとう

ございました。『広報はえばる』と『はえばる議会だより』、それから社協の広報を一部個人へ委託している広報誌配布業務ですが、自治会にいろいろ問題があったと思うのですけれども、状況も変わっていることも考えられますので再受託を自治会に促せないでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 ご質問のとおりいろいろな経緯があつて現在の状況になっているのですけれども、われわれ担当部署としては、もう一度地域で対応できないか相談してみたいと思います。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 区長が自らその地域を回ってもらわないと地域の安心・安全は守れないという基本があると思いますので、ぜひ再受託に向けて促してもらいたいと思います。よろしくお願いします。それから、全19の字・自治会の加入促進への具体策は、今、横断幕が結構ありますけれどもそれ以外にどういうものがあるか教えてもらえますか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 これは町がやっているものと言うことで理解して、住民環境課で転入の際にごみの分別とかあちこちの地域の情報とかそれをひとまとめにして、ぜひ自治会にも加入してくださいという声かけも含めて対応しているということと、あとはそれぞれの自治会が工夫を凝らして取り組んでいるということでございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ネット検索をしてみました。全国では自治会加入促進に関する協定書などの締結が広がっていることを知りました。去った9月1日に、沖縄市では県下初の取組として沖縄市、沖縄市自治会長協議会、中部宅地建物取引業社会の協定を締結したということが新聞でもありました。特に加入率が低い集合住宅の自治会加入呼びかけを強化することで人のつながりを構築し地域の安全性を高めるということらしいのですけれども、南風原町でもそういうことが可能なかどうかお願いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 私も新聞記事は見ました。実態としてなのですが、本町も集合住宅が多い地域によっては自治会長が大家と管理している会社に交渉してやっているところも結構あります。しかしながらやはり、加入するかどうかは本人の意思ですね。そういうこともあるのですが、こういった沖縄市のような組織、ではうちの区長会と町と宅地建物取引の南部支部のようなものがあると思いますが、もし可能であればそういう取組を組織としてやるのも検討する機会だとは思っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ぜひ検討してもらいたいと思います。それから、前回の定例会でも貧困世帯の子ども支援事業でこども食堂が取り上げられていたと思いますが、児童館や各字・自治会公民館での既存の施策との連携、例えばミニデイサービスの日に食事を提供する機会もあると思うのですが、そういうときに、こども食堂も同時に行うことができれば、貧困世帯の支援に加え地域連携の強化や自治会加入増加の期待も得られるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 ご提案の件でございます。既存の施設や既存の事業を絡めてとの話でございます。この点、われわれも大変重要視しております。そのなかで、今から実際行われる事業としまして2点ありまして、1つは町社協と連携して行う事業でありますけれども、社会的孤立対策モデル事業のなかの夜間寺子屋モデル事業というものがありまして、これは町内4つの児童館を活用しまして、学生ボランティアと地域支援ボランティアの協力を得ながら主に学習支援を行う事業でございます。これが11月からスタートいたします。さらにもう1つは、社協で行う事業でございますけれども、子どもの居場所づくり学習支援事業でございまして、これは地域の集会所などを使ってその地域住民が協力しながら子どもの居場所を作って対策をするということで、これは現在、新川自治会が提案されて承認され、11月から実施される予定でございます。このように、既存の施設や施策を利用して子どもの居場所づくりを行うことは大変重要だと思っておりますので、これからも推進してまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。宮平も以前から公民館で学習支援はやっていると思うのです。このへんとの連携はまだないということなのか。情報が行き届いていないのか、分かりますか。

○議長 宮城清政君 暫時休憩します。

休憩（午後1時47分）

再開（午後1時48分）

○議長 宮城清政君 再開します。民生部長。

○民生部長 知念 功君 われわれとしては、子どもの貧困対策事業のなかでそういった地域で利用できる資源があればどんどん一緒になって取り組んでいきたいということがありますので、宮平自治会でやりたいという申し出があれば一緒になってやってまいります。先ほどの課長の答弁に補足といたしまして、ご質問は自治会加入率の部分ですので、要するに民生部でもこういう取組をやっていきますと、人と人がそのように地域連携でつながっていくこと、そういう取組をしていくことが逆に言うとまた地域のつながりが深くなっていくと自ずと自治会加入率にもつながっていくものだと思っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 どうもありがとうございます。宮平自治会にも情報提供をしたいと思います。それから、コミュニティFMも前から質問していますが、それも結構効果があるということで町民から何度も自治会のPRもできると何度も話を聞きますし、沖縄市自治会長協議会では、加入促進に向けてFMコザの番組で毎週木曜日に37自治会の魅力を順番に紹介するコーナーを始めていると新聞報道にもありました。広報紙に各自治会を紹介するコーナーを設けて順序よくやっているというのを見たことがあります。これに関してはどう考えますか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 字の情報については、文化センターであったり、要覧であったり紹介はしております。直接、コミュニティFMと言いますか放送局については、どなたか南風原町にも設置してもらったら非常にありがたいと思うのですが、町が直接の設置運営となるとそれはそれでかなり厳しいかと考えています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 そうですね。他の自治体も民間主導で動いている状況なのでなかなか難しい気がしますが、できるだけ土壌を作るよう仕向けるような施策があれば嬉しいと思います。それから、自治公民館連絡協議会では県外研修も行っていますよね。その成

果をぜひ加入促進につなげていけたらと思うのですがいかがですか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 公民館連絡協議会は、日ごろの公民館活動をとおして、また自治会活動をとおして、公民館まつりの発表会をとおして地域の活動を広く周知することを行っております。この県外研修だけではなくて日ごろの公民館活動を広く告知していくことで自治会加入率も上がることにつながるかと考えます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ぜひ加入が促進されますようよろしくお願いしますということで質問1を終わります。

続いて質問2の教職員の職場環境の改善についてです。今年度も去った8月30日に沖教組との学習懇談会がありました。教職員の皆さんから現場の声をお聞きする機会はなかなかなく、私にとっては貴重な機会です。最近、保守、革新関係なく参加が見られるとのことでした。昨年度参加したときの課題が、また今年も指摘されていたことと、去った9月21日の新報記事によりますと、教員の残業実態を18の教育委員会が把握していない、本来、各市町村教育委員会が教員の労働状況を監督する立場にあるにもかかわらず、超過勤務時間を把握していない市町村教育委員会が少なくとも18に上ることが書かれていました。本町の教職員の皆さんの労働環境は大丈夫だろうかという趣旨での質問です。(1)本町の教職員に対する労働安全衛生管理規程は、平成21年4月1日から施行されていると、この件は県内でも早いほうだと沖教組(沖縄県教職員組合)もかなり評価されていまして嬉しく思いました。ただし、一度開催でその後開催していないということで、それはなぜだったのか。言いづらい点もあると思いますが、よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 同委員会は、メンバーとして委員長が教育部長で学校医、衛生推進者ということで各学校から6人の方を委員として出すことになっています。平成21年度に整備して開催したところ、その1回目は開催できたのですが、その後、この衛生推進者の選定に時間を要してこれまで開催できずに至っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その委員のなかに教職員の皆さんが入っていくことでやはりまた

残業が増えるとか負担が増えるということになり手がいないということもありますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 衛生推進者は、学校においていろんな取組が必要となってくることからかなり負担となることになり手がいなかったということになっております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。なかなか厳しい状況だと。それでもやはり監督していかなければいけない状況はあると思いますので、次に改善策を見つけていってもらいたいと思うなかで、質問2のタイムカードの件ですが、しっかり管理されているかどうかの確認です。タイムカードは導入されているのかどうかお伺いします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 学校教職員の出退勤については、出勤簿による管理となっております。出退勤については、学校管理規則学校職員服務規程により学校長が管理することとなっておりますので、出勤簿で適切に管理されているものと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 4幼稚園はどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 幼稚園におきましては、南風原町の職員であり南風原町が給与を支払っていることから、給与システムと連動が必要なことから出退勤システムによる管理をしております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その違いが分かり難いのですけれども、では県内の公立小中学校ですでにタイムカードを導入している自治体はありますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 タイムカードを活用しているかという学校調査をしたところ、島尻教育事務所管内及び調査した市町村管内においてタイムカードを活用している学校はありませんでした。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。なかなか厳しいですね。ここで質問をしてもまだまだ材料不足ということで終わりたいと思います。

次の(3)印刷機が1台しかなくて空き時間で印刷ができず残業の一因になるという話を聞きました。北丘小学校は規模がかなり大きいということで、その教職員から聞いた話ですが、現場から上がってきていないということで導入しづらいという点がありますか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 議員ご質問の残業の一因となっているため印刷機が不足となっていることは上がってきておりません。ただ、先ほど教育長からありましたスペース等の課題はありますが、460人の学校と800人近くの学校ということで生徒数に大きな差がありますので、今後そういった点も考慮しながら増設は可能かと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。現場からなかなか要望が上がらないということもあると思いますけれども、この件については私も首里PTAのころに先生方が印刷待ちの時間が長いことが多くて困っているという話を聞いたことがあります。あその規模は大きいのですが、北丘小も入れてもらったら少しは軽減になるのではないかと期待しています。よろしくお願いします。

琉球新報9月26日の論壇で、沖教組委員長山本さんの指摘でも労働基準法では1日8時間、週40時間以内の勤務時間が上限として定められていると、これをオーバーすると罰則として原則25パーセント、休日35パーセント、月60時間超は50パーセント割増しの賃金支払いが義務付けられている、教員は1日7時間45分勤務で途中45分間の休憩を取るとされていると、沖教組の勤務実態調査では45分休憩はほとんどなく、1カ月当たり平均92時間の超過勤務実態が浮かび上がっているなどいろいろ書かれていました。ぜひこういう課題を発見するためにも、超過勤務が可視化されて深刻な課題と判断されたならば、部活動に外部指導者を入れるとか、町民皆で議論する必要もあると考えます。このへんにつ

いて考えをお聞かせください。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほども答弁したとおり、教職員の出退勤については、学校長が管理することとなっておりますので、現在も学校長へ適切な把握・管理について指導しているところであり、今後も校長に適切な指導・管理をしていくよう指導してまいります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 本町児童生徒の教育環境をしっかりと確保してもらうためにぜひよろしくをお願いします。以上で質問2を終わります。

続いて質問3. 学童クラブにおける子育て支援について。この質問は、今年4月29日の新聞に、沖縄県と沖縄県各市町村長・市町村議会議長が話し合う沖縄振興拡大会議が自治会館で開かれ、子どもの貧困対策についてを統一議題に市町村と県が意見を交わしたとあり、県子ども生活福祉部長は、県内の放課後児童クラブ学童利用料が全国に比べ高額なことについて支援を求める意見が出ており取り組んでいきたいと述べ、県子どもの貧困対策推進基金を活用し利用料軽減に取り組む姿勢を示したとの内容を読んだのその後の経過を確認したい趣旨です。(1) 県子どもの貧困対策推進基金を使った学童利用料軽減の施策は、その補助によりひとり親家庭の学童利用はどれぐらい増えたのか教えてもらえますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在、ひとり親家庭への補助につきましては、一括交付金を活用して5,000円の補助を行っていますが、平成27年度の対象は47人となっておりますので、今年度現時点で66人となっておりますので19人増えてございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 効果は上がっているということで安心しました。まだまだ増えるかも知れないですね。

次に、町内では翔南小学校施設内を利用している翔南学童クラブが県内でも一番早く公共施設を使用している公設民営の学童クラブで、その存在意義は極めて重要だと思います。翔南学童クラブでは、公的施設を使用していることで実際どれぐらい学童利用料軽減につながっているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 実際、南風原では翔南学童クラブ1カ所が翔南小学校の教室を利用してやっていますが、利用料に関しては他と比べて大幅な軽減にはなっていない現状でございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ちょっと残念な感じですね。学童クラブの県大会でしたか、そこでもテーマに上がっていたということで、せっかく最初にできた公設民営の翔南学童クラブができれば実績発表とかそういうことをしてもらったらもっと良い効果につながるのかと思ったのですが、なかなかそういうことがないということであれば存在意義はなんだろうかと疑問点が一つ浮かび上がりました。しかし、これからまた調査していきたいと思います。

(2)の今後利用者の増加も推測されるか。そうであれば新たな学童クラブ開設も今後計画はあるかについてですが、平成31年度までに利用数見込みですよ。想定内に収まればいいのですが、今まで想定内に収まったことがなかなかないような気がします。昨日夕方のニュースで、県議会で待機学童の問題が取り上げられていました。先ほど聞き逃してしまったのですが、県内での待機学童が増えていて課題となっているという内容だったと思います。町内では待機学童がどれぐらいいるのか教えてもらえますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 待機学童はまた待機児童とは若干違ひまして、4月の申し込み時点で希望される方々の数字を捉えまして、そのあと他の学童に入って行った方々の調査もした結果、9月時点で南風原町の20学童のなかでトータル22人の待機学童がいるという数字が上がってきております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 現時点で1つ学童が必要なぐらいですね。ありがとうございます。それから、去年から今年にかけて一般社団法人の資格を有する学童クラブが数カ所できています。この一般社団法人格とそうでない学童クラブと何が違うのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 これまでの学童の形態は、保護者会が中心になって運営している形態でございました。そうするとおのずと運営費の補助など町に補助金請求がきますが、この名前も保護者会長で請求がくるのが流れでした。しかし、その学童で毎年この保護者会長を決めるのが大変苦勞する現状がございました。なぜかと言うと、保護者会長となるという申請をしたり、何か起こったときには責任も取らなければいけないこととなりますので、今の流れとしまして一般社団法人を取りまして法人格を有しますと、契約関係も法人名でできますし、通帳も作れますし、当然、請求関係も一般社団法人名でできます。それが現状の保護者会と一般社団法人との違いであります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 補助額もかなり高額になってきていると思いますし、趣旨も明確にしてもらうためにもこのへんに進んで行く必要があるのかという気がしますので、ぜひサポートしてもらいたいと思います。それから、先ほどの県子どもの貧困対策推進基金などを使ってさらに施策を続けると、待機学童の問題が今後も続くおそれがある、計画の想定を超える学童希望へも迅速な対応ができるようぜひお願いしたいと思います。以上で質問3を終わります。

続きまして4. 2つの県営団地建て替えについてですけれども、この質問は建て替え前から新規の入居募集をストップしていました。現在もしていると思います。そこに新しく入る世帯がどれくらいなのかをすることで、そのほとんどが子育て世代になるのではないかと思いますので、校区となる翔南小学校、津嘉山小学校の児童数が増えることが予想されると思います。そのことによって(2)小学校校区の再編もあり得るのかということでの質問になりました。想定で申し訳ないのですが、このへんを住民へ説明したほうがいいのではないかと思いますでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 先ほど教育長からもあったように、校区再編については今後の児童の推移を見極めて町の方針を出していくこととなりますので、何も決まっていない現段階で説明することはできません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 そうですね。一応、この議論はここで終わってしまいます。この件はまた、先ほどの学童クラブの話に戻ってしまいますが、空き教室がなくなる可能性も出てきます。翔南学童クラブは契約が1年ごとということもありますが、向こうも一般社

団法人格を取っていることが退去してもらう際のネックになることはないか、どうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 現在、翔南小学校におきましては、空き教室を目的外使用の許可を得て利用してもらっていることになりますので、これは相手先がどうこうではなくて、空き教室がある間、目的外使用に許可をするということになります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 空き教室がなくなったとき、トラブルにならないようよろしくお願いします。

続いて5. 路上違反簡易広告物除却活動員の設置についてですが、第18期議員の任期も半分を終え、県知事選、国政選挙、県議員選挙と一通り応援などで今までの自分の立場と異なる状況を経験させていただきました。私個人としては、違法であること、町の景観を損ねること、経費の無駄、これには見解の相違もあるかと思いますが、お金をかけない選挙を掲げて町議会議員選挙に臨みましたので違法ポスターについては止めるべきではないかという意見です。選挙のたびに町民から町の景観を損ねていると指摘を受けます。違法ポスターを貼るのを止められないならば、気付いた町民が撤去できるルールができないかと考えたところ、3月29日の琉球新報に那覇市の取組が紹介されていました。南風原町でも取り組めないかということでの質問です。対象外ということですか。諦めるしかないのでしょうか。このへんもう一度お願いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 路上違反簡易広告物除却活動員、これは先ほど触れましたけれども、法律に基づいて中核市と指定都市が移譲されて行っております。これは取れるものと取れないものがございます。店舗に管理されているのぼりとかは活動員が取るのではなくて、自治体に通報して自治体が指導するというかたちです。取れるものというのは、何らかのシールだとか一つのルールがあります。もう1つ、政治団体及び選挙広報車、宗教法人、労働組合などの非営利団体が表示するものについてもこの活動員が除去するものではなく、その活動員を委託している市に連絡して、そこが対応するということになります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 なかなか難しい問題だと理解できました。議会だよりの191号にも町民の声のなかにやはり選挙期間中、電柱や道路、フェンスに貼られたポスターや横断幕にやりたい放題だと気になったということが書かれています。また、町の美観は町民の意識が一番大事だと指摘されています。ぜひ、町民の皆さんにも一人一人の権利としての一票にその意識をもって投票していただきたいのと、私たち議員も美しいまちづくりに率先してお手本となって欲しいとの要望にも応えていきたいと思ひまして、以上で質問5を終わります。

質問6。今回の質問6は、去った9月14日にタイムスに掲載された糸満市のいとちゃんバス再開の記事と、日付は不明ですが同じくタイムスに那覇市真和志地区での予約型乗り合いタクシー実証実験の記事を参考にしています。以前から何度か提案している町内巡回バスの提案も関連していますが、他の自治体での施策等の情報も得られましたので今回はこれまでと違う視点から質問させていただいております。(1)本町としては再生法について(2)、(3)の答弁からして、公共交通の維持に困難を生じている地域はないとの認識だと捉えていいのか伺いいたします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 これは先ほど副町長がお答えした空白地域ですね。それぞれの市町村で定義を決めて、これ以上離れていたら空白地域だというようなところでございます。必ずしも過疎地域だけではないことも認識はしております。ただ、以前にも議会で答弁したことがあるのですが、県道240号線を走っていた城間線、宮城を通って大名を通っていくもの、それから県道128号線の津嘉山を通って照屋を通って役場に至るバスの廃止経緯についても町民からはぜひ存続してくれというのがほぼなかったということでございます。なおかつ、利用者がかなり少ないために廃止になったという事実もございます。本町はありがたいことにエリアが小さい、大型店や医療施設が逆にバス停より近いかということで、交通手段で非常に不便を来しているという声が多々あるということではございません。実際のところそういった声がほぼない状況が現実であります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 分かりました。これから近い将来、整備される予定のMICEや豊見城に建設が予定されている空手会館のイベント終了後、アフターMICEのわがまち南風原への集客、観光客の誘致のためにも、他の自治体がこういう検証をしているのもそういうための研究だと思う面もあるのですが、やはり来てもらう前にまず町民がどこへでも不自由なく移動できる交通システムの構築が必須ではないかと考えます。せっかくイオン南風原ショッピングセンターから首里駅、ラウンドワンからパレット久茂地や新都心の

おもろまち駅まで往復の無料バスが運行されていますし、両方の事業者とさらに津嘉山自動車学校のバスもあちこちを回っていますのでそういう所と協定を結んで、公共交通特許を申請して便を良くすればいいのではないかと思いますのですがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 特区についても以前お答えはしておりますが、逆に特区は通常誰でも入れる所に公共交通以外では入るなというたぶん規制をするような、法律以外のことをやるというのが特区だと思います。それはたぶん、平日の混雑回避とかCO2の削減とかそれぞれ目的はあると思うのですが、本町がその特区を検証するかどうか、まだ時期は早いのではなかろうかと思います。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 まだまだ研究が必要だと思いました。ありがとうございます。以上で質問6を終わります。

質問7です。農福連携についてですが、これからの南風原町農業を背負って立つ若手農家の皆さんですが、南風原町農業青年クラブの連絡協議会が去った3月に全国農業青年クラブ連絡協議会会長賞も受賞されて、活躍は大変心強く思います。南風原町農業青年クラブの活動は、保育園での農園体験や農業をテーマにした小中学校の総合学習など地域貢献活動に積極的に参加してきたことが評価されたと当時の琉球新報に掲載されていました。前田会長によると、今後も地域行事に積極的に参加していきたいと語ったとのことで、ぜひ今後は福祉事業所との連携も考えて欲しい気がします。去った5月29日の琉球新報と6月9日の沖縄タイムスに農福連携の記事がありました。障がい者が働く場として農業の存在感が高まっていると、高齢化や担い手不足に直面する農家と受注作業の減少に悩む障がい福祉の事業所が連携することで双方の課題が解決できると、障がい者が心身の調子を取り戻し一般の仕事に移行したり収入が向上する効果も出ているとの内容でした。また、ネットからの情報によると、日本ビジネスプレスの記事ですが、NPOや社会福祉法人が農業に進出したり、農家が障がい者を雇って農作業を行ったりする農福連携が進んでいる。社会福祉法人のなかには認定農業者となったり六次産業化を進めたりして収益を上げている事業所もあると、国も農福連携マルシェやシンポジウムを開催する他、助成金制度を創設するなど後押しをしているという内容です。前回、無農薬無施肥の自然栽培について、町内での普及を図るために一般質問をしましたが、別の視点から社会情勢など含めての質問を考えました。農と福が連携することで互いの問題を解決できるようになってきているとのことですが、町内の農業人口の減少と農家の高齢化は課題となっているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 ご質問の高齢化と農業人口の減少というのは、日本全国の課題ということで、南風原町でも同様のことが起きていると認識しております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 残り20秒しかありませんので次にいけないということで残念ですが、残りの質問は次回にやりたいと思います。以上で終わります。

○議長 宮城清政君 以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれにて散会いたします。お疲れ様でした。

散会（午後2時21分）